

資料館だより

CONTENTS

- 1 … TOPICS
- 2 … 展示活動報告／研究会・講演活動報告
- 3 … 資料館での雑感／平成24年3月～5月移管・寄贈資料／平成24年度資料館スタッフ紹介
- 4 … 開催案内／資料館業務日誌／平成24年度入館者

TOPICS

資料館長がスライドで150年間の本学の歴史を紹介

—金沢大学創基150年記念式典にて—



金沢大学創基150年記念式典風景(古畑資料館長の説明を聴く参列者の皆さん) (写真提供: 総務課企画広報係)

金沢大学では今年(平成24)、源流である加賀藩彦三種痘所の開設から150年目の節目を迎えたことを記念し、5月30日、市内ホテルにおいて創基150年記念式典を挙行了しました。

式典には、平野博文文部科学大臣、森喜朗元内閣総理大臣、板東久美子文部科学省高等教育局長をはじめ、県内の自治体及び経済団体、国内関係大学、海外協定大学、同窓会関係者、名誉教授等々約600人が参列しました。また、来賓祝辞に続き、古畑資料館長が「スライドでみる金沢大学150年のあゆみ」のミニ講演を行いました。

外国からの来賓等約50名が、「新歓展」を視察

式典に先立つ5月30日午前、式典参列のために来日された外国からの来賓一行が資料館展示室を見学されました。短時間ではありましたが、古畑資料館長の説明に耳を傾け、常設展示品や新入生歓迎のための特別展示品、さらに23年度に収集した展示品などを熱心にご覧になられました(P2に関連記事)。



式典後の祝賀会における来賓らによる鏡開き (写真は、金沢大学HPより)



金沢大学総合移転地基本設計全体模型 (1:1000) を見つめる来賓一行

展示活動報告

新歓展

「金沢大学へようこそ」

【会期】平成24年4月6日～6月29日 【会場】金沢大学資料館展示室

パネルと展示品でたどる金沢大学の歴史



新歓展は、新制大学として誕生した金沢大学の設置から現在までの歴史をパネルと展示品でたどるものです。城内キャンパスとして有名であった丸の内キャンパスや大学の大きな転機となったキャンパス総合移転、そして現在の角間キャンパスに関わる資料等約40点を展示しました。

併せて、平成23年度中に収蔵した資料も展示・紹介しました。



四高開学88年記念「四高生こけし」



第2回石川県教育宝くじを見つめる中村学長

資料館では、展示室内のレイアウトを大幅に変更し、中央に企画展示を、周囲に金沢大学の前身校をたどる常設展示を配置しました。金沢大学150年の歴史を一覧し、その伝統を感じてもらおうと試みます。ぜひご覧ください。



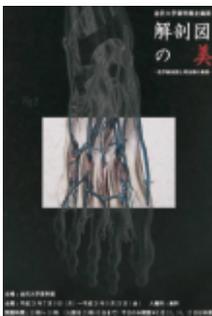
新歓展、常設展の展示風景

企画展

「解剖図の美 — 医学解剖図と明治期の掛図 —」

【会期】平成24年7月9日～9月28日 【会場】金沢大学資料館展示室

100年前の医学教示図、解剖図を再発見



資料館では、昨年から、開館以来収集してきた資料を改めてチェックし再整理するための「金沢大学資料館所蔵資料(モノ)の整備」事業を行っています。その過程で、金沢医学専門学校及びその前身である第四高等学校医学部などで使われた「医学教示図」の一群などの貴重な資料が再発見されました。

資料の中には、写真スライドすら存在しなかった100年ほど前のものもあります。これらが視覚教材として重要な役割を担っていたという教育史的観点だけでなく、当時の最新の図版技術で印刷された精巧なものが多く、美術的、技術史的な観点からも非常に貴重なものです。

本企画展では、この再発見された医学教示図、とりわけ解剖図を中心に約40点を展示し、主に美術・技術の観点からそれらを解説しています。非常に珍しい図版が多数展示されていますので、ぜひ一度足をお運びください。



展示中のフランツ・フローゼ人体解剖図
右が全面筋肉、左が背面筋肉<ドイツから輸入>

研究会・講演活動報告

活動報告

大学博物館等協議会・博物科学会(京都大学)に参加

【会期】平成24年6月21日～22日 【会場】京都大学百周年時計台記念館、総合博物館他



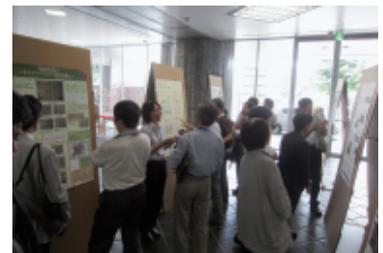
本学からは、古畑資料館長他7名が参加しました。また、「第7回博物科学会」では、本学から次の発表等を行いました。

【研究発表】

- 四高旧蔵のキノコ・ムラージュ標本とキノコの手描き掛図・続報
- 旧制教育機関における科学実験機器の比較検討—科学実験機器資料リポジトリ・プロジェクトによる情報共有の試みから—

【ポスターセッション】

- 非文献資料リポジトリ研究会—非文献資料情報の機関横断的な共有の取り組み—
- 自然科学系博物館における効果的な科学×アート展の模索



ポスター発表会場での活発な意見交換風景

学生から見た資料館(温故知新)



【明倫堂扁額】

「明倫堂」は加賀藩の藩校。11代藩主前田治脩(はるなが)は綱紀の意思を継いで、京都の儒学者新井白蛾を招き、文武の学校の設置を計画させ、寛政3年(1791)10月に兼六園の傍、長谷川邸跡に着工、翌年2月に落成した。文学所を「明倫堂」、演武場を「経武館」と呼んだ。扁額は新井白蛾筆。

図書館の最奥、資料館に足を踏み入れると、思いの外ゆとりのある空間が広がっている。展示は常設展・企画展からなるが、まずは堂々たる明倫堂の扁額が迎える常設展へ。第四高等学校をはじめとする前身校に関わる資料から、金沢大学のルーツをたどる。金沢大学は2012年に創基150年を迎えたが、自校の歴史を知る学生は少ないように思う。かくいう筆者も、パネルに付された説明を見ても知らなかったことばかりである。来館者からは豊富な資料への感嘆と共に、学生に顧みられていない現状を嘆く声も聞かれる。今一度、反省をもって改めて展示を眺めてみた。すると、新鮮な驚きがある。四高の様子を再現したという実験機器を取めた棚、寮生が記した怪談など、当時の生活を身近に感じられるのである。手に触れられるほどの距離から、すみずみまで資料を堪能できる。これ

はとても貴重な経験なのではないか?。学生にとっては身近な場所である。図書館から少し足を伸ばし、何度でも訪れてみてはどうだろうか。

さて、様々な資料の間を抜け奥に進むと、企画展のセクションに入る。4月から6月にかけては新歓展を、7月からは企画展「解剖図の美」を開催している。一面に美しく、精緻な版画の数々は魅力的である。ただ、広い空間に、詳細を知らぬ資料。どこから、何をみれば良いのか、楽しみ方がわからないのが気になる。およそ100年前の医学解剖図で、非常に貴重だということだが、その感想が「わあすごい」ではあまりに惜しい。

人間社会環境研究科人文学専攻(東洋史) M1
(竹谷康さん)

資料館の仕事は、学内外の皆様のご理解があつて初めて円滑に進むことも多く、関係の皆様方のご支援・ご協力に改めて感謝申し上げます(P4「お知らせ」に関連記事)。

平成24年3月～5月
移管・寄贈資料

今期も多くの方々から貴重な資料の数々を移管・寄贈していただきました。当館にて大切に保管し、貴重な資料として活用させていただきます。改めて感謝申し上げます。
(平成24年度第1回資料館委員会(24.6.4開催)承認)

移管

- 四高等の本学前身校から理工学部分析化学教室に移管された実験器具等11点(目視比色計、組み立て式天秤、硬度計、金属標本、光学顕微鏡、臨鉱器械、アルコールメーター、電流電圧計、銀秤、金石識別用器械及び稀有金属標本)

理工研究域物質化学系教室

寄贈

- 過去に出席した会議等で配付された資料や会議記録等を綴ったもの(55点) 笠井純一氏
- 教育担当理事室に保管されていた過去資料(8点) 樫見由美子氏
- 羽場氏金沢高等師範学校関係資料コレクション(8点) 羽場氏
- 田中武彦氏が金沢高等工業学校在学中に記録した講義メモ、文献等を整理の上製本したものの(7点) 田中武彦氏



理工研究域物質化学系教室から移管された「臨鉱器械」



理工研究域物質化学系教室から移管された「稀有金属標本」



田中武彦氏から寄贈された講義メモ(製本されたもので、背表紙表題が金で箔押しされている)



羽場氏から寄贈された平成9年12月1日の北國新聞

平成24年度 資料館スタッフ紹介

資料館長

古畑 徹(人間社会研究域歴史言語文化学系教授)

資料館委員

古畑 徹(資料館長)

柴田 正良(附属図書館長)

前田 隆(人間社会研究域経済学経営学系教授)

山本 健(医薬保健研究域医学系教授)

東 雅彦(情報部長)

奥野 正幸(理工研究域自然システム学系教授)

資料館研究員

梅田 康夫(人間社会研究域法学系教授)

奥野 正幸(理工研究域自然システム学系教授)

笠井 純一(人間社会研究域歴史言語文化学系教授)

大久保英哲(人間社会研究域学校教育系教授)

小林 信介(人間社会研究域経済学経営学系准教授)

鳥居 和代(人間社会研究域学校教育系准教授)

資料館客員研究員

竹村 松男(金沢大学名誉教授)

馬替 敏治(金沢大学名誉教授)

本康 宏史(石川県立歴史博物館)

宮下 和幸(金沢市立玉川図書館)

谷本 宗生(東京大学大学院文学部)

堀井 美里(金沢大学大学院人間社会環境研究科)

沢田 史子(金沢星稜大学)

上田 啓未(デジタルアーキビスト)

ジェレミー・フィリップス(翻訳家)

事務職員

井川 俊昭(情報部情報企画課)

笠原 健司(情報部情報企画課)

高出 真妃(情報部情報企画課)

開催案内

特別展

人物で見る金沢大学の150年 ～その伝統と創造～

会期 平成24年10月15日～11月16日
会場 金沢大学資料館展示室

平成24年は、金沢大学創基150年の記念すべき年に当たります。本学の歴史的資料を保管・展示する資料館では、この関連企画として3年がかりで本学の歴史を約50年ずつ廻る特別展のシリーズを開催してきました。

今年の特別展は、過去3年間の集大成となる150年間の通覧展示を行う計画です。

特に、この150年間の歴史を彩った本学(前身校を含む)出身者・教員等の人物に焦点を当てることで、学内外の人々に本学の伝統を実感できるものにする試みです。



写真展

よみがえる城内キャンパス

会期 平成24年11月1日～14日
会場 金沢城公園鶴の丸休憩所

資料館では、今年(平成24)も金沢城公園内の鶴の丸休憩室の一角を借りて、懐かしい城内キャンパス(正式には丸の内キャンパス)時代の写真展を開催します。

本写真展は、毎年「金沢大学ホームカミングディ」の開催日(本年は、11月10日(土)に開催)に併せ企画しているものです。



教育学部新校舎(昭和27(1952)年4月)。旧第7歩兵連隊兵舎として使用されていた。後方に「石川門」が写っている。

資料館業務日誌

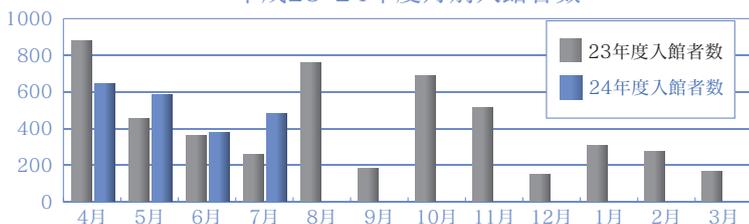
(平成24年4月～7月分)

4.6～6.29	新歓展「金沢大学へようこそ」(特別企画「新収蔵品展」)
4.23	学長新歓展視察
4.25	平成24年度第1回ヴァーチャル・ミュージアム打合せ
5.22	平成24年度第2回ヴァーチャル・ミュージアム打合せ
5.24	「金沢大学資料館」(24年版リーフレット)発行
5.25	研修会(富山大学附属図書館)
5.28～5.31	ミュージアム・ツアーの実施
5.30	創基150年記念式典に参列する外国からの来賓等(約50名)新歓展視察
6.4	平成24年度第1回資料館委員会
6.13	平成24年度全国博物館長会議(文科省)
6.19	平成24年度第3回ヴァーチャル・ミュージアム打合せ
6.20	平成24年度公文書管理研修Ⅰ(国立公文書館)
6.21～6.22	平成24年度大学博物館等協議会・博物科学会(京都大学)
7.5	マイクロフィルム保存に関する実態調査(東大経済学部小島浩之氏ほか)
7.9～9.28	企画展「解剖図の美—医学解剖図と明治期の掛図—」
7.10	平成24年度第4回ヴァーチャル・ミュージアム打合せ
7.10～7.13	平成24年度公文書管理研修Ⅱ(国立公文書館)
7.17～7.25	ミュージアム・ツアーの実施(7/17,20,23,25の4日間)
7.20～	各部局等に蓄積する過去文書の調査・回収

平成24年度入館者

(平成24年4月～7月分)

平成23・24年度月別入館者数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
23年度	872	447	355	252	753	179	683	508	146	302	270	164	4,931
24年度	639	577	375	474	-	-	-	-	-	-	-	-	2,065

お知らせ

資料館リーフレットを作成しました。金沢大学資料館ホームページ及び金沢大学学術情報リポジトリKURAで公開しましたので、ぜひ一度ご覧ください。

金沢大学学術情報リポジトリKURA
<http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/>

資料館では、5月28日～31日に、資料館長及び職員が展示品等を解説しながら鑑賞する「ミュージアム・ツアー」を企画しました。突然の企画で周知不足であったにもかかわらず、4日間で学内外から25人の参加がありました。

同ツアー参加者からの意見等を参考に、7月に、企画展(P2)でも同様の企画を行ったところ、4日間で学内外から39人の参加があり好評を得ました。

編集後記 今年度(今号)から、発行回数を年3回に改め、紙面の全面リニューアルとともに新たな情報の提供を試みた(前号の「編集後記」参照)。

このような編集作業(広報事務)も何度か担当したが、そのたびに、「この広報紙は何を目的に、誰に読んでもらうために」を意識するのがこれに負えない難問である。「見てもらう、読んでもらう」ための工夫を色々と模索してみるが、迷案は泡のごとく浮かんで消え(消され?)、最終的には発行側の自己満足的な内容(形式的な取組み = 言い訳作り)で編集・作成したものを各方面に配布し一件落着となる(自戒)。

今号も、「この内容で、皆様に読んで貰えるのか。アピールできるのか」との自問自答が続く。(井川俊昭)

金沢大学資料館だより 第39号 平成24年9月21日発行



【発行/編集】 金沢大学資料館

〒920-1192 金沢市角間町
TEL 076-264-5215 FAX 076-234-4050
Mail museum@adm.kanazawa-u.ac.jp
<http://museum.kanazawa-u.ac.jp>